

Economic Indicators

発表日: 2019年4月8日(月)

国際収支(2019年2月)

～経常収支(季調値)は貿易収支・サービス収支の改善を受けて黒字幅拡大～

第一生命経済研究所 調査研究本部 経済調査部
副主任エコノミスト 小池 理人(Tel:03-5221-4573)

		原数値 経常収支 (億円)	季調値 経常収支 (億円)	貿易・サービス収支			第一次所得収支
					貿易収支		
					貿易収支	サービス収支	
2017	11月	13,423	18,150	4,281	4,955	▲ 674	15,934
	12月	7,709	17,631	2,675	3,004	▲ 329	17,199
2018	1月	6,106	19,746	4,178	4,892	▲ 714	17,216
	2月	21,365	13,972	▲ 1,317	▲ 1,286	▲ 31	17,110
	3月	31,858	17,261	3,480	4,554	▲ 1,074	15,600
	4月	18,865	19,001	4,549	5,631	▲ 1,082	16,042
	5月	18,951	16,702	▲ 650	1,043	▲ 1,693	19,017
	6月	12,115	17,123	691	1,861	▲ 1,170	18,347
	7月	20,269	16,391	296	1,082	▲ 786	18,006
	8月	18,237	14,606	▲ 864	▲ 388	▲ 476	17,419
	9月	18,437	14,199	▲ 1,910	▲ 1,383	▲ 527	17,523
	10月	13,163	13,662	▲ 2,109	▲ 1,655	▲ 454	17,591
	11月	8,211	14,519	▲ 1,499	▲ 1,103	▲ 396	17,334
	12月	4,644	16,447	2,236	1,865	371	15,609
2019	1月	6,004	18,330	▲ 339	517	▲ 856	19,859
	2月	26,768	19,576	2,418	2,023	395	17,361

(出所)財務省「国際収支統計」

○経常収支(季調値)は1月の春節の影響からの反動を主因に黒字幅拡大

2月の経常収支(原数値)は26,768億円の黒字(コンセンサス:26,270億円の黒字、レンジ:23,112~30,461億円)とほぼコンセンサス通りの結果となった。季節調整値では19,576億円の黒字となり、前月(1月:18,330億円)から黒字幅が拡大した。

経常収支(季節調整値)の黒字幅拡大の主因は、貿易収支の改善(1月:517億円→2月:2,023億円)である。もっとも、貿易収支の改善は、1月の輸出が春節によって押し下げられていた反動で、2月に大きく増加した影響が大きい。1、2月を均してみれば貿易収支は1,270億円の黒字に止まっており、むしろ12月の貿易収支と比較して、水準を下げる結果となっている。

○投資収益が減少も所得収支は引き続き高水準を維持

2月の貿易外収支(季節調整値)をみると、第一次所得収支は17,361億円の黒字と前月(1月:19,859億円の黒字)から黒字幅が縮小した。直接投資収益の黒字幅縮小(1月:10,853億円の黒字→2月:9,005億円の黒字)が主因である。ただし、直接投資収益の減少は大きく増加した前月からの反動である可能性が高く、水準は依然として高水準にあることから、特に問題は無いだろう。

サービス収支は、395億円の黒字となり、前月の856億円の赤字から黒字に転化した。内訳をみると、

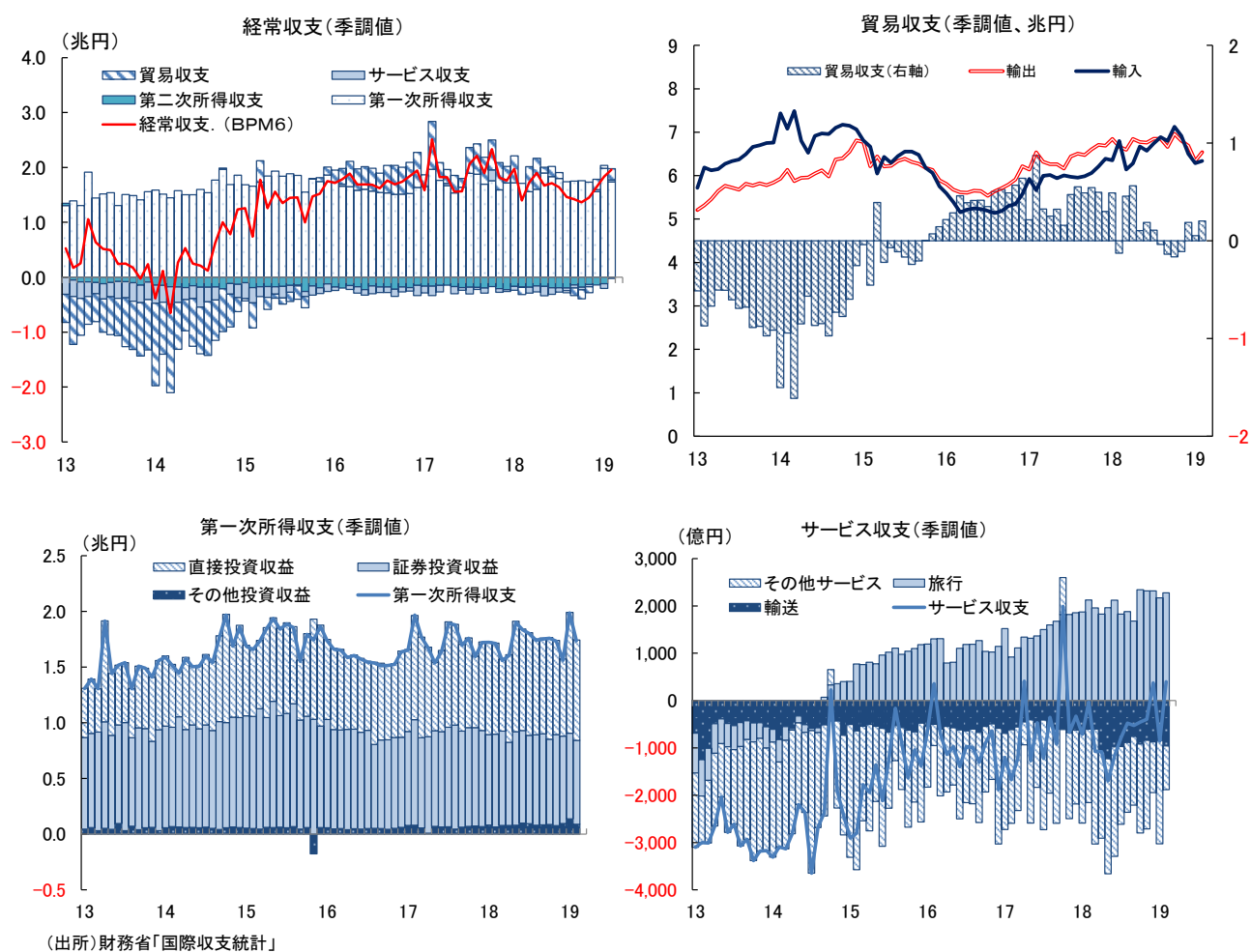
輸送収支が赤字幅を拡大した一方で、その他サービス収支が赤字幅を縮小（1月：2,181億円の赤字→2月：925億円の赤字）し、旅行収支が黒字幅を拡大（1月：2,171億円の黒字→2月：2,279億円の黒字）した。

○経常収支は横ばいの動きを続ける見込み

以上のように、2月の経常収支（季節調整値）は、貿易収支及びサービス収支の改善を受けて、黒字幅を拡大させる結果となった。とはいえ、前述のように今回の経常収支の改善は、春節の影響による貿易収支の増加要因も含まれるため、その分は割り引いてみる必要があるだろう。

経常収支の先行きをみると、所得収支については、直接投資や証券投資を牽引役として、引き続き堅調な推移が続くだろう。一方で、貿易収支については、弱い動きが続く可能性が高いとみている。4月5日に公表された3月の貿易統計（上中旬）を見ても、輸出は前年比▲2.3%と力強さを欠いた動きとなっている。海外経済の不透明感から、今後輸出が大きく改善するシナリオは描きにくく、貿易収支が経常収支の牽引役となる可能性は低いだろう。

今後についても、貿易収支の弱い動きを堅調に推移する所得収支が下支えする形で、経常収支は横ばい程度の動きを続けると予想する。



本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所調査研究本部経済調査部が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。